

今昔

街道を行き交う人々で賑わう門前



※現在地の住所と現況写真の撮影地は、資料に基づき推定したものです。
※左の絵は原本を一部加工、着色しています。

この絵は、尾張名所図会に描かれている江戸時代の^{かみちか}上知我^{おとよのかこし}麻神社です。熱田神宮の摂社で乎止與命を祀り、江戸時代には源太夫社とも呼ばれていました。また、智恵の文珠としても知られています。

かつては笠寺台地の愛智郡千竈郷に鎮座していたものとみられます。

源太夫社前は東海道と美濃路の追分で、往来する人々で賑わう様子が描かれています。東海道は鳴海方面(絵図 下)から源太夫社に突きあたり、絵図を左に曲がると七里の渡しへ、美濃路は源太夫社前を起点に絵図を右に進むと中山道に到ります。

正月五日の初恵比寿には初市も立ち、その賑わいの様子が尾張名所図会に次のように記されています。

“^{わたつあひほころ}海神祠大黒天祠 境内にあり。毎年正月五日の初市に恵比寿・大黒の摺絵をうり、又御福餅・掛鮎・苧・葱をうる、みな此大黒を祝して福をいのる意也、俗に御福迎へといふ”

戦後の復興事業のため、昭和24年に熱田神宮境内に遷座され、現在は道標のみが当時の面影を残しています。

一方、熱田神宮内に移った上知我麻神社では現在も「初えびす」があり、縁起物の熊手やお札を求める大勢の参拝者で賑わい、今も変わらず正月の風物詩となっています。

※苧：麻のこと



上知我麻神社(熱田神宮境内)
熱田神宮正門(南)を入り、左に折れた所にある



道標(熱田区伝馬町一丁目)
交差点南側の道標は現在も同じ位置に建っており、絵図に見える北側の道標は、現在は30mほど東に保存されている

- ◆関連資料 ※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です
- 『尾張名所図会 前編四』岡田啓／編 愛知県郷土資料刊行会(Sc-A)
 - 『愛知県歴史の道調査報告書VI -美濃街道・岐阜街道-』愛知県教育委員会文化財課／編 愛知県教育委員会(Se-A)
 - 『新修 名古屋市史 第1巻,第9巻』新修名古屋市史編集委員会／編 名古屋市(Sc-ナ)
 - 『熱田歴史散歩』日下英之／著 風媒社(Sc-ヒ)
 - 『熱田区の歴史散歩』ブックショップマイタウン／編 ブックショップマイタウン(Sc-フ)
 - 『尾張国神社考』津田正生／著 ブックショップマイタウン(Sc-ツ)